

婚活するならLGBTに学べ!

若者の結婚離れが進む中、政府は婚活支援に本腰を入れている。今年度は、自治体が開く婚活パーティーなどへの交付金として計11億円の予算を計上。前年の5億円から一気の大盤振る舞いとなった。

ところが、笛吹けど踊らず。内閣府による独身者へのアンケートでは、「すぐに結婚したい」「2～3年以内に」は30%ほどにとどまり、独身者の半数近くは「いずれは結婚したい」と曖昧な回答をしている。生涯未婚率が過去最高を更新し続けるわけだ。

しかし、こと恋愛に関し

ては得意な人たちもいる。性的マイノリティとして不遇なイメージのあるLGBT（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー）の人たちだ。

不動産の比較査定サイト「スマイスター」が、LGBTの人たちにアンケートしたところ、驚きの結果が出ている。

「GW期間中に都内で行われたLGBTイベントの参加者たちにアンケートしました。北は北海道、南は鹿児島から来た人もいましたが、現在、彼氏彼女のパートナーがいると回答した人

カップルの26%が同棲中

は約58%で、そのうち26%が「同棲中」でした。昨今、若者の草食化が叫ばれていますが、LGBTの人たちの恋愛熱は予想以上に高まっていると思われます」（「スマイスター」を運営するシースタイル企画開発グループ担当者）

不遇どころか、肉食化しているようだ。

LGBTのカップリング率の高さの理由として「東京レインボープライド」などの支援組織が積極的にイベントを組んだり、またNTTやヤフー、ソニー、東急電鉄などの大手企業の理解の広まりもある。

渋谷のイベントは大盛況



民間の婚活パーティーを見回しても、今月19日に池袋で開催される「ゲイの婚活パーティー」の参加料は「タチ、が1500円で「ネ

コ、が2000円と、一般的な婚活パーティーより安い。さらに、その際に「婚活パーティー」と呼ばず、「恋愛パーティー」と銘打ってハードルを下げており、カジュアルに相手を探して欲しいという意識も垣間見える。

「LGBTの同棲者に同棲についての問題点を聞いたところ、将来の不安が最も多く、次いで周囲の差別や無理解、賃貸住宅が借りにくいと続きました」（前出の担当者）

ある程度の「障害」が逆に恋愛への意欲を高める結果につながっているようだ。政府は若者を結婚させようと必死だが、一度、LGBTの人たちの意見も聞いてみるといいかもしれない。